



おかやま環境ネットワーク

NO.60
2011.1

NEWS

発行:(財)おかやま環境ネットワーク
〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7
TEL/FAX 086-256-2565
E-mail:kankyounet@okayama.coop
HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

新年あけましておめでとうございます 本年もご支援の程、よろしく願いいたします

新年のご挨拶 (財)おかやま環境ネットワーク理事長 青山勳

皆様、新年明けましておめでとうございます。年始年末はゆっくりと過ごされたことと思います。昨年の流行語大賞は「ゲゲゲの・・・」でした。ちなみに一昨年の流行語は「政権交代」で「交代」に期待し、「事業仕分け」で「税金の無駄遣い」の払拭に期待しましたが、治世者の無能ぶりに期待の風船もしぼんでしまいました。今年は「ゲゲゲの・・・」の後に何が期待できるでしょうか？

おかやま環境ネットワークが2001年に創立されてちょうど10年になります。私たちは暮らしの中で個人・団体・企業などあらゆる人が結集して県下に望ましい環境作りをめざし、それを通して岡山の文化を継承し、また新たな文化を築いていきたいと思っています。

昨年の11月おかやま環境ネットワーク編集による書籍「ホタルと人と

文化」を上梓しました。40～50年前には漆黒の闇の中を妖しげな小さな光をちらつかせるホタルの群舞を見ることができました。今では環境破壊と水質汚濁その他様々な要因が重なって、ホタルが見られる所は限られてきました。この8年間県下にある約40のホタルの愛好団体と共にホタルを守り、育て、増やす活動を行ってきました。この活動を通して、ホタルを守るだけでなく、団体間の連帯が築かれ、深く、温かい交流が生まれました。この中で生まれたのが「ホタルと人と文化」です。日本人は万葉の時代からホタルに愛着と郷愁をもっていました。その中から様々な文化をも育んできました。ホタルを守ることは環境を守ることであります。私たちはホタル、アマモ、里山・・・など文化を育む自然を、環境をこれからも大切にしていきます。

『ホタルと人と文化』出版のご案内

自然の河川の中で環境の影響を受けやすいホタルは、環境の状況を反映する生物で、良好な水環境を表すシンボルとも言えます。本書は、ホタルの成育と人との歴史性、文化性について述べています。

ホタルそのものはもちろん、それを取り巻く環境、ホタルにちなむ事柄や解説用写真も数多く掲載しています。読みものとして、写真集としても楽しめる本です。是非、手に取ってご覧ください。

○著者：梶田 博司・青山 勳

○定価：1,680円（税込）

○申込：おかやま環境ネットワークへ送付先・冊数をご連絡ください。振込用紙を同封しお届けします。到着後ご入金ください。書店、通販でも販売中です。



No.60の内容

- I. 新年のご挨拶 青山 勳理事長…………… P.1
- II. 寄稿『2つのエコ』千葉 喬三…………… P.2
- III. 寄稿『ホタルと人と文化 出版に寄せて』梶田 博司…………… P.3
- IV. 団体紹介『永江川河口湿地』森 千恵…………… P.4
- V. 企業会員紹介『西日本衛材株式会社』…………… P.6
- VI. おかやま環境シンポジウムご案内…………… P.7
- VII. 各種ご案内、理事会報告等…………… P.8

千葉 喬三

「2つのエコ」



近頃は何でも「エコ エコ」です。大方は、これを環境関連、すなわち「Ecology」のエコと素直にとっておられるのでしょうか、ヘソのねじ曲がった私などは何時もこれは「Economy」のエコだと思っています。EcologyとEconomyは同根で、家・家政・生活を意味するギリシャ語のOIKOSからきています。その意味では同義に近いはずなのに、今日これほど対置的な内容を負わされている言葉も少ないのではないかと。

いろいろあります。エコ減税。こんなものも単なる売買（経済効果）のことで、環境負荷すら助長しています。それと例の生物多様性会議。生き物の衣を着た人間（国）の利権（金）の奪い合い。極めつけは、イラかぼけか知らないが、現金をばらまいて格好だけ

つけたどこかのくび長さん。

もう一つ。排出権取引。森林が二酸化炭素を吸収する。嘘言うな。話は半分。森林を構成しているのは樹木です。まず、この樹木。樹木の樹木たるところは連年生長し、長寿であること。確かに樹木は空中の二酸化炭素を取り込みますが、一方で生きるため取り込んだ二酸化炭素から作る代謝産物（ブドウ糖など）を燃やします。燃やせばご存じ二酸化炭素。若いうちは取り込み方が多い（すなわち成長する）が、壮年を過ぎれば両者はトントン。

森林状態ではどうか。森林は樹木などの植物群と土壌で構成されている。植物群が作った有機物（二酸化炭素が半分）は早晚落葉落枝として土壌に落ち、ミミズ、キノコ、微生物群の餌になり、二酸化炭素として空中に放出される。両者は釣り合っており、この物質循環が極めてうまく作動することにより森林が存続しているのです。皆さんが大好きな天然林は

この循環がパーフェクトな森です。でも、二酸化炭素吸収には何も貢献していないのです。お分かりのように、森林・樹木（土壌有機物を含め）は二酸化炭素の貯蔵体ではありますが、吸収体としての機能は極めて限定的なのです。ついでにいえば、人工林が優等生。このことはいずれ他の機会に。

それなのに、森林を無条件に産業（経済体）が放出する二酸化炭素の吸収体に仕上げ、それを金銭取引で片づけるなどという悪質なスキームがまかり通る。これに、およそ有史以来、環境などに関心を示したことのない地上最悪の環境破壊国である中国が悪乗り。何と排出権を外国に売り、またそれを知ってか知らずか、買う国・企業がある。噴飯ものどころか、重大な犯罪行為です。どこまでも厚顔無恥な国・民です。こうなったら殆どエコ仮面舞踏会の様相。

イヤもう止め。新年早々アドレナリン全開では、折角お金を払った（！）降圧剤が効かなくなる。

千葉 喬三 氏

1939年生まれ。国立大学法人岡山大学長。農学博士(京都大学)。(財)おかやま環境ネットワーク理事(前理事長)。

梶田 博司

『ホタルと人と文化』

出版に寄せて



おかやま環境ネットワークの事業の一つとして「ホタルと人と文化」が昨年、出版されました。執筆者に名を連ねる幸運に酔っている間にも日数はどんどん過ぎて行き、生来エンジンの掛かりにくい私は酷暑の中で四苦八苦することとなりました。刊行日を延期してもらうことも本気で考えていましたが、青山理事長の指導力と事務局の梅崎氏、黒岩女史の全面的支援のお陰で予定の刊行日に何とかこぎつけることができました。一人ならば間違いなくギブアップしてたはずです。ご支援あってのことと心から感謝しています。

学生時代、夜行虫（単細胞プランクトン）を研究対象として以来、夜行性動物や発光生物と関わってきました。ホタルに興味を持ったのは約30年前です。当時はそれほど注目される動物ではなく、調査時には不審がられていました。小雨降る夜に道路に腹這いになって

上陸した幼虫を撮影している姿をひき逃げ死体として通報されたり、まっ暗な川岸にたたずんでいれば幽霊と勘違いされるなど、各地でお騒がせしました。ところが社会が自然の大切さ、環境保護の重要性に気付き、ホタルはその象徴として認識されるようになり、私も観察会や講演会に引っ張り出される破目になったのです。ホタルと同様、暗がりを楽しんでいたのに日の当たる舞台へ押し上げられて気恥ずかしい思いでした。

やがて、おかやま環境ネットワークとのお付き合いが始まります。2004年、第2回ホタルフォーラムの準備段階だったと思います。その時にホタル連絡会の存在も知りました。ホタルの保護や増殖を目的とする団体は他府県にも広く存在しますが、県下の団体が一堂に会して各地域の報告や、それぞれの工夫、悩みをオープンに話し合う場など県外ではほとんどありません。岡山県では会を重ね着々と実績を上げていました。後発の団体には得がたい情報収集の場となり、県下全域へ波及効果も期待できます。しかも毎年秋には会場を持ち回りホタルフォーラムが開かれ、現地のホタル生息地や養殖施設も案内してもらえるので

す。

フォーラムが第7回を迎えた2009年、青山理事長より漫然と繰り返すだけでなくこれまでの報告をまとめ、さらに現在の県下のホタルの状況も著した書籍を残すべきとの指示を受け、出版事業が動き始めました。

当初、書名は「岡山のホタル」を想定していましたが、各種ホタルの説明や生息環境を列記する予定でしたが、様々の理由から書名は「ホタルと人と文化」に変更されました。すると古典、映画、伝説、食品、工芸品まで盛り込むべき内容がぐんと拡大します。講演会では噂話のように気楽に語った内容はその場で消え去ってしまっていますが、本になれば死後までもしっかり残ってしまいますので改めて古い資料類を捜し出し、耐久性に欠ける老眼に目薬を差しつつ、できうる限り正確に記して行きました。ホタルそのものは勿論、それを取り巻く環境、ホタルに因む事柄、物品を知る範囲で網羅し解説用写真も数多く載せてあります。読みものとして、写真集としても楽しめる本になったと胸をなでおろしている次第です。手に取ってご覧いただければ幸いです。

梶田 博司 氏

1946年生まれ。島根県出身。川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科教授。

日本ホタルの会会員。環境省委託調査委員。倉敷市環境審議会委員。

森 千恵

NPO法人岡山淡水魚研究会

干潟担当



永江川河口湿地

吉井川は河口から2 kmほど上流に「日本の重要湿地500」(2001年10月)に選定されたヨシ原があります。1999年決議(ラムサール登録湿地を倍増しよう!)を受けて、環境省が湿地調査を行った結果です。

さらに、2002年～2004年に環境省は「自然環境保全基礎調査」(国内干潟調査)を行いました。同報告書中に「永江川河口は…この海域の他の地点に比べると、小規模ながらも貴重なヨシ原の生態系を残している…」と記述されています(環境省自然環境局、2007)。

この調査の「中国四国・日本海責任者」のひとりが福田宏氏(岡山大学農学部水系保全学研究室)で、社会人学生だった私も調査に何回か同行させていただきました。

森 千恵 氏

生活クラブ生協、PTA等で活動後、岡山大学大学院自然科学研究科博士前期後期課程で学び2010年退学。継続して底生生物の生態調査や、湿地の保全活動に取り組んでいる。在学中に高木仁三郎基金の選考委員を務めた。

湿地通い

2005年～2007年、私はオカミミガイ(写真1)を材料に、ヨシ原湿地特性を論文にしようとしていました。



写真1 オカミミガイ

この「修士論文」は、読み返すことも憚られる仕上がりで、苦い思い出になっています。それでも、気になる干潟の貝を見にヨシ原詣では続けました。「貝マニア」に言わせるとオカミミガイは所謂「駄貝」(=どこにでもいる、珍しくない貝)。「絶滅危惧」種といわれても、永江川の個体数は夥しく、棲息地のヨシ原は、私が歩き回ってもびくともせず、ケロっと茂って夏中じゅーっとした空気を維持し、「湿地の生きものに居心地がよさそうな環境」(=換言すると、ヒトには受け入れ難い環境)を提供します。「実験」と称して貝を持ち帰っても、絶滅するなんて想像

できません。乾燥を防げば実験室で繁殖行動も観察可能。永江川河口湿地の何もかもが頑丈にみえました。

論文ネタの材料をトビハゼに変えていた私は、気晴らしにヨシ原に立ち寄るようになりました。遠くからの景色も、ヨシの中に入り込んで生き物を見るのも楽しくなってきたのです。誰も彼もが生き生きして見える湿地では、トビハゼの表情も実験室にいるものと全然違って見えます。

湿地の工事

この湿地に思わぬ責任を感じたのは2009年のこと。2月、国交省から、「掘削・浚渫工事」のことで電話が入りました。2年前の築堤で工事は終了したと思っていたので、「まだやるの?環境省は何で私に?」と、面喰らいました。「湿地の保全」は保証されていると思いでいたのです。私は「保全を約束されている湿地」を生物調査に使わせてもらっているお客のつもりでいました。経緯はどうかであれ、この湿地に最大の関心をもち、出入りしているのは私だけで、重い責任を両手に「どさっ」と渡された不意打ちに慌てました。

遅まきながら「保全」を考える

国交省の依頼内容は、「7月開始の掘削・浚渫前にヒロクチカノコ(写真2)、フトヘナタリガイ(写真3)、オカミミガイを確認して欲しい、移植の指導もしてほしい」でした。掘削予定地に2種を確認、多数の貝を対岸湿地に移動しました(詳しくは「岡山の自然」2009年夏号参照)。

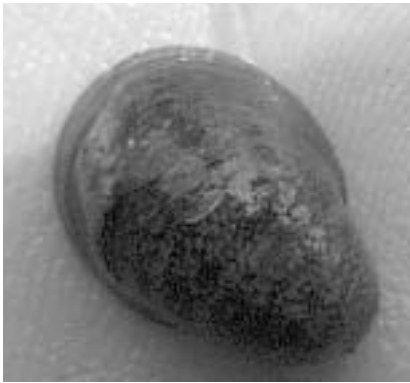


写真2 ヒロクチカノコ

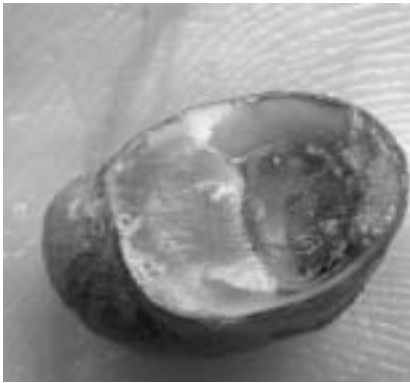


写真2 ヒロクチカノコ

私には、この方法が保全になるのかわかりません。「わからないから工事をしないで」という声は、通らない状況でした。「何のための工事だ?」という疑問は、いわば場違いで保全を謳って工事を止めるには空疎な響き。この段階で地元住民向けの工事説明に疑問の余地はありません。



写真3 フトヘナタリガイ

反対できるとしたら14年前の計画時であったでしょう。「控えい!このデータを何と心得る!」「背中はこのデータが目に入らねえか!」そんな黄門様の印籠級、遠山様の彫り物級のデータがあれば・・・。「おらにパワーをくれ〜」嗚呼虚しい叫び声。

「湿地の保全」の道、探索中

湿地に隣接している土地が浸水し易いというのは当たり前のこと。湿地保全を目的としているラムサール条約は、保全と人の生活をどう両立させるかという課題を提起します。でも、殆ど知られていません。「気がついたらヨシ原がなくなっていた」という事態を恐れるならば、私だけが知る、私が好きな湿地の様子をまず知ってもらおう。そこで、子どもたちに「すぐ近くに生き物たちが元気に生きている湿地があるよ」と伝えることにしました。総合学習で干

潟教室を受けた子どもたちや先生の「行ってみたい!」の声をきき、すっかり気を良くして、実際にヨシ原を案内することができました。

立ち入りによる環境負荷は課題ですが、話しベタの私の案内でも湿地の存在がカバーしてくれるようです。

初めてヨシ原の生き物を見た人は、一様に「うわ、こんなのがいるんだあ・・・」と、驚いてくれます。さらに、保全活動に少しずつ参加してもらうため、ゴミ拾いを計画しています。実は、干潟のゴミ片付けは最大の難問です。「ゴミは湿地の一部である。基本的に放置せよ」という福田宏氏の説は尤もです(字数の都合で割愛!)。私も同感。でも・・・。実験区を設けて、太伯小学校のみんなと取り組んでみようか方法を考えているところです。

※写真: 第7回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査 (干潟調査)

※報告書 2007年3月環境省 自然環境局生物多様性センター

※撮影: 江木 寿男氏



トビハゼ(10.17.干潟教室にて撮影)

西日本衛材株式会社



弊社は、トイレットペーパーを製造し販売している会社ですが、昭和38年創立当時より、原料は100%古紙で製造いたしております。創立当時は、チリ紙を製造し、トイレの水洗化、生活様式の変化により、昭和52年よりトイレットペーパーの製造を開始いたしました。現在は、トイレットペーパー・業務用タオルペーパーの製造をいたしております。

古紙をリサイクルしてトイレットペーパーを製造する場合、その使用する古紙はほとんどが、産業古紙（印刷工場で印刷ミスの紙、製本工場で出てくる裁断クズ）が主体ですが、弊社は平成4年に原質・調整工程を全面改良し、最新鋭の古紙処理設備を導入いたしました。これにより、ラミネート古

紙（両面ビニールコーティング）が大量に使用できるようになりました。また、金具付き機密書類の処理も可能になりました。通常機密書類は、シュレッダーをかけて、焼却したり大変手間をかけられておりますが、弊社の設備は、機密書類を段ボールに入った、密閉した状態で箱毎溶解処理いたします。手間がかからず、尚且つリサイクルでき環境に良いということで多くの皆様によるこんでいただいております。

弊社の主要販売先である、おかやまコープ様からは、牛乳パック・注文用紙・オフィス古紙をトイレットペーパーの原料としてリサイクルさせていただいております。

弊社の方針として、リサイクルされず、ごみになっている古紙をいかにリサイクルするかということに日々挑戦いたしております。

また、ゼロエミッション（廃棄物ゼロ）に挑戦しており、古紙をリサイクルして排出される廃棄物についても再度リサイクルに努めております。一番多く排出されるスラッジ（コーティング剤）は、セメントに混ぜて増量剤、紙パック等のビニールはサーマルリサイクルで燃料に、金物は選別してリサイクル等。

紙は、リサイクルの王様といわれております。どんな紙でも溶かせばまた紙にもどります。ごみにしないで分別してリサイクルをお願いいたします。

◇会社沿革

- 昭和38年 工場建設に着手
- 昭和38年 1号抄紙機運転開始
- 昭和44年 2号抄紙機運転開始
- 昭和52年 二次活性汚泥処理装置完成
- 昭和52年 3号抄紙機運転開始
- 昭和52年 パルパー連続離解方式導入
- 昭和56年 5号抄紙機運転開始
- 昭和62年 6号抄紙機運転開始
- 平成元年 市民回収の牛乳パックを原料として使用開始
- 平成2年 エコマーク商品の製造を開始
- 平成3年 兵庫県より「環境にやさしい商品」指定
- 平成4年 兵庫県より「環境にやさしい事業者賞」受賞
オフィスペーパー、機密書類の処理開始
「リサイクル推進協議会会長賞」受賞
- 平成10年 ペーパータオル製造・販売開始
- 平成11年 兵庫県より「環境にやさしい事業者賞」優秀賞受賞
- 平成11年 「ISO14001」国際環境規格の認証を取得
- 平成20年 「ISO9001」国際品質規格の認証を取得
- 平成20年 クラフト包装機を導入
- 平成22年 国内クレジット制度排出削減事業 認証
- 平成22年 プライバシーマーク認証

会社概要

〒679-4169 兵庫県たつの市龍野町大道566番地
 電話 0791-63-1181(代表)
 FAX 0791-63-3617
 設立：1963年4月2日
 資本金：9,000万円
 代表取締役：合田 康人
 事業内容：家庭用薄用紙製造販売
 工場敷地面積：20,677㎡
 従業員数：約130名
 年商：約50億円
 取り扱い商品：トイレットペーパー、タオルペーパーなど
 URL <http://www.nne.co.jp>

地域を語り、未来を拓く！

第二回おかやま環境シンポジウム

☆おかやま環境シンポジウム☆

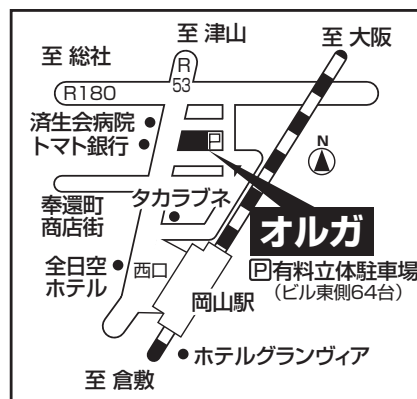
地域の環境・産業の現状を語り合い、今後の地域づくりの手がかりを探ります

緑のダム機能、生物多様性、地域文化との関わり、木材資源、レクリエーション利用などの森林の機能や、森林と林業、山村の再生について考え、各地の情報交換、交流をすすめます

- 日 時：2011年2月26日（土） 13～16時
- 場 所：オルガホール
岡山市北区奉還町1-7-7（地下ホール）
- 参加費：500円
- 定 員：100名（定員になり次第、締め切ります
どなたでもお気軽にご参加ください）



- 当日のスケジュール(予定) 12:30開場
13:00～13:10 開会挨拶
13:10～13:55 基調講演 嶋 一徹さん
(岡山大学大学院環境学研究科准教授士)
- 13:55～14:20 報告 岡山県農林水産部林政課・高尾 欽也さん
- 14:30～15:25 各地での取り組み・状況報告
 - 小見山節夫さん (NPO法人ふれあいの里・高梁理事長)
 - 宗安 和彦さん (林研グループ「明日檜会」会長)
 - 黒田 真路さん (国六株式会社 取締役・新庄事業所長)
 - 浦島 文男さん (千年の森づくりグループ代表)
 - ◇コーディネーター：白井 浩子さん (元岡山大学准教授)
- 15:25～15:55 報告の補足・参加者との意見交換
- 15:55～16:00 閉会挨拶



- 参加申込み FAX・メール・郵送等で下記まで送付ください
主催：(財)おかやま環境ネットワーク・自然環境部会
〒700-0026 岡山市北区奉還町一丁目7番7号（オルガ5F）
電話/FAX：086-256-2565
E-mail：kankyounet@okayama.coop
HP：http://www.okayama.coop/kankyounet/

切り取り

第二回おかやま環境シンポジウム 参加申込書

お名前（ふりがな）	連絡先（〒・住所・電話番号・メール等）	所属

『ホタルフォーラム』報告

第8回ホタルフォーラムを岡山市と山南ホタルの里連絡協議会との共催で、11月27日百花プラザ(岡山市東区)及び西大寺一宮公園にて開催し、93名の参加がありました。

当日は、単行本『ホタルと人と文化』の出版記念講演「生物多様性とホタル」(梶田 博司氏・川崎医療福祉大学)と、ホタルの調査、保護、復活、再生をめざして活動している団体からの報告、地元「山南ホタルの里連絡協議会」が3年にわたり改修に取り組んだ水路の見学も行い、ホタルを通して生物多様性の奥深さと大切さを改めて感じた一日となりました。

- ・団体報告①「ホタルが飛び交う水路の修復工事」那須 敏氏(西大寺公民館自然探検講師)
- ・団体報告②「ホタルの生態と用水路の現状」大橋 弘司氏(岡山市身近な生きものの里高島・旭竜)
- ・団体報告③「農業用水路とホタルとの共存を考えて」山崎 秀樹氏(酒津のホタルを親しむ会)
- ・開場内では団体活動紹介の展示もありました。

環境家計簿委員会 委員募集

環境家計簿委員会は、月に1回(年10回程度)委員会を開催し、「環境家計簿カレンダー」や環境家計簿モニターの実績をまとめた環境家計簿レポートの作成など、くらしの中のエネルギーの削減に向けた取り組みをすすめています。

一緒に活動をすすめるメンバーを募集しています。お気軽に事務局へお問合せください。

かけがえのない地球、未来のこどもたちへ!

環境講座のご案内

1. 会場：オルガ(岡山市北区奉還町1-7-7)
2. 時間：10時～12時
3. 受講料：無料
4. 定数：35名(先着順で受付)
5. 申込：必ず事前に氏名・住所・電話番号をご連絡ください(定数を超過し参加いただけない場合のみ連絡します)。

◇第5回講義 1/15(土)
生態系と人間活動 地球一個分のくらしって?

元岡山大学准教授・白井 浩子氏

◇第6回講義 2/19(土)
人類発展の仕組みの反省・新しい仕組の構築

中国四国地方環境事務所
・三田 裕信氏

◇第7回講義 3/19(土)
自然と人間の共生を図ること、持続可能な社会構築のために

岡山大学研究推進本部副本部長
・青山 勳氏

ボランティアスタッフ募集

おかやま環境ネットワークでは、毎年いろいろな事業、イベントを行っています。多くは様々なボランティアの皆さんに支えられています。事業の企画や、運営、ニュース発行や実務作業など、たくさんの方に参加していただきたいと思っています。

企画運営、編集、作業等々、興味のあること、都合のつく時間などをお知らせください。

交通費実費は補填します。

お気軽に事務局へお問合せください。

ご寄附のお願い

おかやま環境ネットワークでは、取り組みを進めていくための寄附を募っています。皆様から寄せいただいた寄附金は、おかやま環境ネットワークが取り組んでいる様々な活動に有効に活用し、大切に使用させていただきます。

12月度理事会報告

12月理事会にて、以下の事項が承認されました。

1. 第2回おかやま環境シンポジウム収支計画の修正
2. 2011年生物多様性の日記念ファミリープログラム企画
3. グリーンパートナーおかやま「海ごみ」事業への団体参加
4. 2011年度年間日程(案)
5. 2010年度事業報告と2011年度事業計画(1次案)

事務局より

1. おかやま環境ネットワークニュース原稿募集
団体会員の活動や、企業会員の事業をネットワークニュース1ページで紹介しませんか!
2. 各種企画等の記事募集
環境に関する企画等の概要を紹介しませんか!
3. 2011年度協働事業の募集
環境ネットワークと協働して事業を実施しませんか!協働による相乗効果、広がりをめざしましょう!

※上記1～3につきましては、必ず事前に事務局までお問い合わせください。詳しいことをお伝えし、ご相談させていただきます。



2010年度会費をまだ納付いただいていない方に振込用紙を同封しておりますので、お振り込みくださいますようお願いいたします。

お問い合わせは (財)おかやま環境ネットワーク

〒700-0026

岡山市北区奉還町1-7-7

TEL/FAX 086-256-2565

E-mail:kankyounet@okayama.coop

HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/